

中学校道徳地域資料「宇和海」作成実行委員会入会のお願

旧知であった東京書籍の石塚さんが、城東中学校の校長室を訪れたのは、2016年の4月でした。宇和島を舞台にした地域道徳教材を作りたいが良い事例はないだろうかということでした。私は、即座に「はまゆう保護活動」のことが、頭に浮かびました。旧宇和海中学校生徒会の取組が、地域を巻き込み、統合後(2016)も城南中学校で引き継がれている。隣接する学校の取組でしたが、全国に誇れる取組であることを知っていたからです。当時の城南中学校長 坂本信二先生の御協力を得て、愛媛大学教授 城戸 茂先生の取材により完成したのが「はまゆうのバトン」です。このようにして、宇和海を舞台にした4つの道徳教材ができあがりしました。4つの作品とも、綿密な取材を基に、持続可能な社会づくりに向けての道徳教材となっている特徴があります。また、宇和海の自然の豊かさ、自然の厳しさ、人の温かさの中で「生きる」若者の姿から、宇和島への誇りや愛着を育み、シビック・プライドを醸成するものと思います。4つの作品について、簡単に紹介します。

「命なる海を後世へ」－持続可能な21世紀型養殖漁業を追い求めて－

「海は命じゃ。海を汚してしもうたらいかんのじゃ。子や孫のためにも海を守らんと！」1961年、遊子漁業協同組合は倒産の危機に直面していた。専務を任された古谷和夫は、組合員の反発や赤潮の発生などの困難にあいながらも、「命なる海」を守るため、持続可能な21世紀型養殖漁業を目指し、漁協の再建を試みる。「命なる海を後世へ」は、持続可能な社会の担い手として、どう生きるべきかを考える読み物資料です。

「はまゆうのバトン」－受け継がれる伝統－

1977年にハマオモトヨトウの幼虫が異常発生し、宇和海に浮かぶ沖の島のハマユウが絶滅の危機に瀕していることを知った旧宇和海中学校の生徒たちが、翌年から保護活動を始めた。この保護活動は、2015年に統合された後も城南中学校生徒会に引き継がれている。はまゆう保護活動を基にした「はまゆうのバトン」は、受け継ぐことの大切さを学ぶことができる読み物資料です。

「無人島体験」－御五神島の友情－

1988年に「少年冒険生活体験事業」として始まった「御五神島・無人島体験事業」は、累計で1,530名の子どもたちに自然体験活動を提供してきた。子どもたちは「不便・不足・不自由」な環境で、対立や葛藤を経てお互いを認め始め、仲間と協力して課題を解決していく経験を重ね、家族のように絆を深めていく。「無人島体験」は、仲間との絆、困難を乗り越えて得る自信、協力することの大切さを学ぶことができる読み物資料です。

「フィッシュガール」－初めての「伊達マグロ」解体実演販売－

「伊達マグロ」の解体実演販売に取り組むフィッシュガールは郷土の期待を背負い、その販売の新しい形を創造し、全国、世界へと羽ばたく。つまずき、挫折しそうな思いを支えてくれたのは、郷土で働く人たちの志や、温かく指導してくれる先生、美しい宇和島の自然であった。宇和島水産高等学校の「フィッシュガール」は、みずみずしい若者の成長を実感できる読み物資料です。

このたび、宇和島市地域調査研究事業の補助を受け、宇和島市内の先生方の御協力を得て学習指導案や資料集を作成しました。

多くの方にこの資料を知っていただき、宇和島への愛着と誇りを持っていただき、また、それを子どもたちに継承していくためにも、この資料を印刷製本し、道徳の授業で活用していくことが大切です。そこで、**中学校道徳地域資料「宇和海」作成実行委員会**を立ち上げ、その資金をクラウドファンディングで募ることとしました。何とぞ、その趣旨に賛同いただき、実行委員会に入会いただきますようお願いいたします。

中学校道徳地域資料「宇和海」作成実行委員会事務局

愛媛大学大学院教育学研究科 特定教授 山本 浅幸